



わきの下に設置し、目立ちにくい（イメージ）

# 米ボストンの除細動器 埋め込み後も運動可能

米医療機器大手のボストン・サイエンティフィックの日本法人（東京・中野、内木祐介社長）は

1月、運動などの活動制限が少ない埋め込み型除細動器「エンブレムMR I S-I-C-Dシステム」を発売した。

主流の埋め込み型除細動器は、不整脈の検知や電気ショックを与えるために心臓内にリードと呼ばれる線を挿入して固定している。手を頻繁に上げ下げしたり激しい運動をしたりすると、リードがはずれる危険があり、埋め込み後の運動が制限

されている。同社はリードを皮下に留置しても心臓の不整脈を検知し、電気ショックを与えることができる除細動器を開発。心臓にリードを入れないため、埋

め込み後の活動制限が少なくて済み、軽度の運動はできるようになる。機器を入れる場所は従来の胸の上でなく、わきの下で目立たない。手術も、患者にもよるが1時

間程度ですむという。今回、磁気共鳴画像装置に対応した新機種を発売し、患者が活動しやすくする。保険償還価格は306万円。年30億円の売り上げを目指す。